

ボックスステッシュデータ作成の注意点

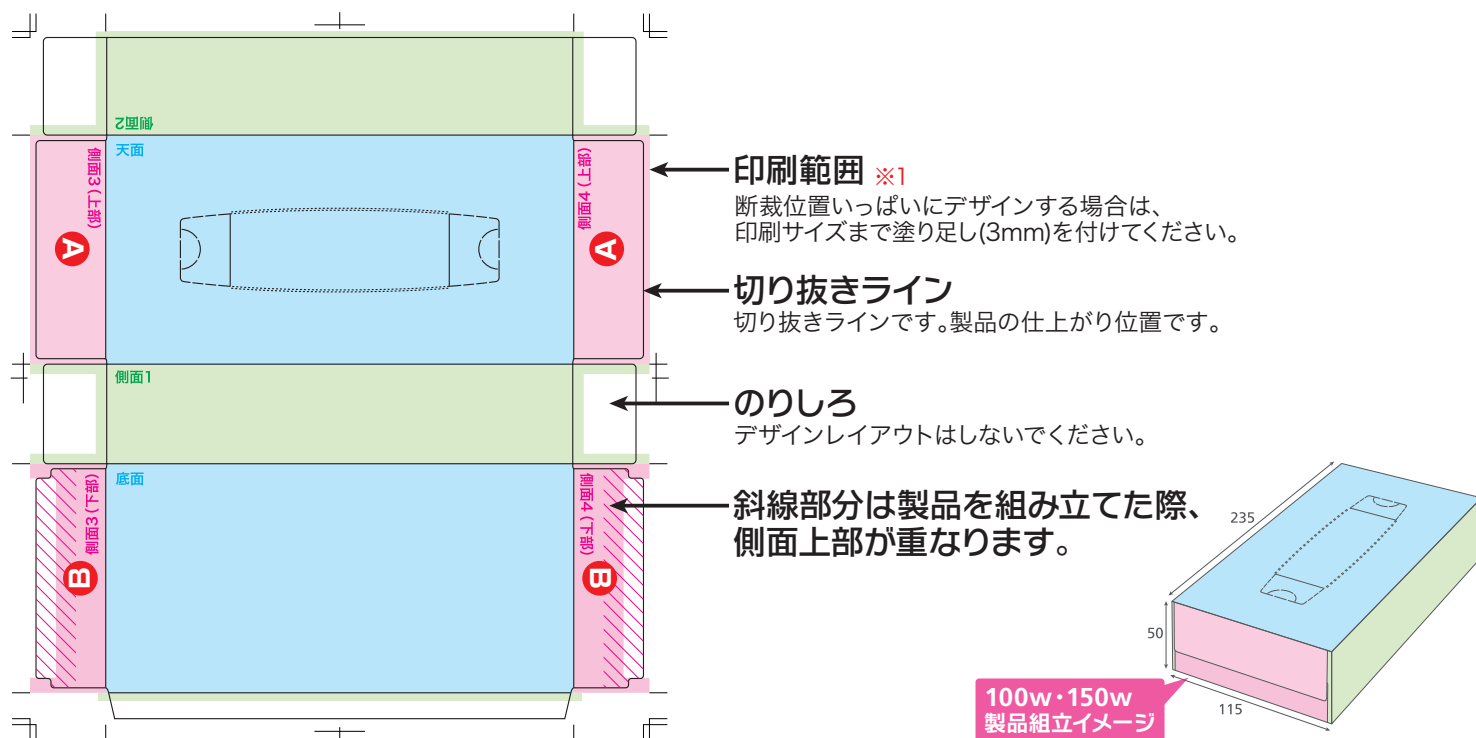
Ai イラストレータでのデータ作成時 Adobe Illustratorでのデータ作成注意点 対応バージョン Creative Cloud(CC) まで

1. カラーモードをRGBからCMYKに変換してください。モニター上で見た色と印刷した際の色との再現が大きく異なります。
2. Illustratorでは必ず「トリムマーク」を使ってトンボ(仕上りサイズに断裁するために必要な目印)を作成して下さい
3. 切り抜きラインの天地左右に各3mmの塗り足し分を必ず作成して下さい。 ※1
(※色が断裁ラインギリギリですと、断裁時に白いフチができてしまう場合がありますそのため断裁ラインの外側にまで色を塗り足します。)
4. ヘアライン(線幅のない塗りのみの指定のライン※2)は印刷の時に消えてしまいます。ご注意ください。
※2 塗りで作った線はモニター上で見えていても、印刷時に消えたり消えたりするため、印刷ができません。
5. フォントが無い場合、意図していないフォントに置き換わったり文字が化けてしまうため、テキストは必ずアウトライン化して下さい。
6. テキストを打った時にできる余分なアンカーポイント(孤立点)は削除して下さい。
7. Illustratorで画像をリンクしている場合は、リンク画像も一緒にデザインデータのフォルダに格納して入稿して下さい。
8. 保存時にバージョンを下げたりしないで下さい。(作成していたデータと保存したデータに違いが出てしまうので、ミスのもとになります。)
9. データの保存形式はeps形式かai形式にして下さい。

Ps フォトショップでのデータ作成時 Adobe Photoshopでのデータ作成注意点 対応バージョン Creative Cloud(CC) まで

1. 印刷物で十分な品質を確保するためには画像解像度の確認をしてください。
写真などの画像データは、原寸サイズで350~400dpiの解像度が必要となります。
線画状態の画像データは、原寸サイズで600~1200dpiの解像度が必要となります。
2. RGBからCMYKに変換してください。モニター上で見た色と印刷した際の色との再現が大きく異なります。
3. レイヤーの表示非表示などで、印刷されないレイヤーがあったりトラブルの原因になる可能性があるため、作業中に作成した印刷に使用する全てのレイヤーは、一枚の背景レイヤーに統合して下さい。またこれを行うと、フォントもラスター化され、フォントのアウトライン作成は必要ありません。
4. 保存形式はeps形式かpsd形式で保存して下さい。

テンプレートデータについて(例) 100w・150w

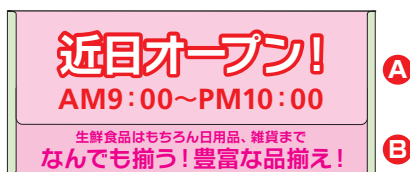


100W・150W・200Wの場合

製品を組み立てた際に、短い側面上部と下部の重なりがございますので、重なりを考慮してデザイン作成してください。

○ 良い例

重なりを考慮したレイアウトですと、製品を組み立てた際
きれいなデザインに仕上がります。



× 悪い例

重なる部分に文字などをレイアウトしてしまうと、
製品を組み立てた際に文字が側面上部に隠れてしまいます。

